

実務経験のある教員による授業科目一覧【理学療法学科】

2019年度

授業科目	単位数	履修学年	担当教員	実務経験	授業内容
臨床推論演習	1	3	鈴木 学	理学療法士	効果的な理学療法の実施には的確な理学療法評価が前提となる。具体的には、基礎的な患者情報などから適切な検査・測定項目を選択し、正確な検査・測定を行う。その結果と情報を既存の知識を基に解釈し、その上で障害構造を分析して新しい判断（理学療法診断、すなわち合理的な目標設定、治療手段の選択など）を行うことを学ぶ。本科目では、演習を通じてこの臨床推論過程を学び、学生個々のメタ認知を涵養する。
理学療法評価学演習	1	2	黒川 望	理学療法士	効果的な理学療法の前提は的確な理学療法評価である。演習を通じて、検査・測定項目を適切に選択し、基礎的な検査・測定を行い、検査・測定結果に基づいて理学療法対象者の障害構造を分析する力量を培う。主に、形態、関節運動、筋力の測定方法について学ぶ。体格、四肢長、四肢周径の計り方とその評価方法、関節角度計を用いた関節可動域検査法、徒手筋力検査法、筋力検査機器による測定方法について具体的に学び、実施できるようにする。
運動器系理学療法評価・治療学演習Ⅰ	1	2	城下 貴司	理学療法士	運動器系理学療法学の各論に関し、講義と演習を通じ理解する。幅広い運動器系の中から、大腿骨頸部骨折、変形性膝関節症、慢性関節リウマチ、切断、脊髄損傷、熱傷、骨盤底筋群不全を取り上げ、通常の座学講義に加え、一部PBLデモンストレーションとしての演習を通じ、理学療法士としての対応方法を学ぶ。また、運動器系疾患・障害の特異的検査・測定方法については、実技演習を導入し、実施できるようにする。
運動器系理学療法評価・治療学演習Ⅱ	1	3	城下 貴司	理学療法士	運動器系理学療法の臨床活動に科学的根拠を与えるための理論体系を構築することを目的に、専門基礎科目で学んだ知識を理学療法の視点から再構築する。問題基盤型学習（problem based learning, PBL）を通じ、諸科学の中から理学療法の科学的根拠を裏付ける理論を抽出し、統合と再配置により、理学療法の理論的パラダイムを考察する。さらに、国内外の専門雑誌を検索し、理学療法の効果を検証する。また、既存の理論で説明が困難な諸問題については、今後どのような学問領域のどのような知識が必要になるかを考える。
神経系理学療法評価・治療学演習Ⅰ	1	2	鈴木 学	理学療法士	脳梗塞・脳出血などの脳血管障害、パーキンソン病・脊髄小脳変性症などの変性疾患、脳性麻痺など各種神経疾患の症状と、それに伴う障害についての知識を習得するとともに、各疾患・障害に対する理学療法、特に運動療法の原理、治療体系、評価、問題点抽出、目標設定、治療計画の立案方法について学習する。さらに、各疾患における重要なリスク管理方法や理学療法の効果判定についての考え方を学ぶ。
神経系理学療法評価・治療学演習Ⅱ	1	3	鈴木 学	理学療法士	「神経系理学療法評価・治療学」、「神経系理学療法評価・治療学演習Ⅰ」で学んだ治療体系について技術面の演習を行う。具体的には脳血管障害の急性期・回復期・慢性期それぞれに対応した治療アプローチの習得、進行性神経難病の進行段階に合わせた理学療法を実施できる能力の習得を目指す。評価から効果判定まで系統的な理学療法ができるよう演習を行う。
呼吸・循環・代謝系理学療法評価・治療学演習	1	3	木村 朗	理学療法士	呼吸・循環・代謝系理学療法の臨床活動に科学的根拠を与えるための理論体系を構築することを目的に、専門基礎科目で学んだ知識を理学療法の視点から再構築する。問題基盤型学習（problem based learning, PBL）を通じ、諸科学の中から理学療法の科学的根拠を裏付ける理論を抽出し、統合と再配置により、理学療法の理論的パラダイムを考察する。さらに、国内外の専門雑誌を検索し、理学療法の効果を検証する。また、既存の理論で説明が困難な諸問題については、今後どのような学問領域のどのような知識が必要になるかを考える。
物理療法学演習	1	3	目黒 力	理学療法士	「物理療法学」で学習した基礎的知識をもとに、実際の方法を学ぶ。安全且つ適切、迅速に実践できること、ケースに対してインフォームドコンセントを確実にこなせるようにすることを目標とする。各種測定機器を用いて各自物理療法による生理学的変化を測定・分析することを通じて、疾患に応じて適切な物理療法を適用する力を養う。
日常生活活動学演習	1	2	浅田 春美	理学療法士	「日常生活活動学」で学んだ起居・移動、食事、排泄、入浴、更衣、整容など生活の基本動作について、疾患、障害別の分析・評価及び練習・指導方法を学ぶ。具体的には、脳血管障害、脊髄損傷、慢性関節リウマチ、大腿骨頸部骨折、パーキンソン病、筋萎縮性側索硬化症などの疾患それぞれ特有な障害に対し、歩行補助具、車椅子、自助具、コミュニケーション装置の使用法を含めた日常生活へのアプローチの技術を演習を通じて学ぶ。
地域理学療法学演習	1	3	岡崎 大資	理学療法士	地域理学療法に従事する理学療法士が熟知しておくべき法制度について学ぶとともに、法制度に基づく分野での理学療法の目的、現況等を、各法制度の目的や方法、制定に至った歴史的背景、具体的事例等を通して学習する。また、地域在住の高齢者を対象とする地域理学療法について、見学・体験実習を実施することで、医療的視点に加え生活に対する視点を持つとともに、地域における理学療法士に期待される役割について考察する。
見学実習	1	2	浅田 春美	理学療法士	学内で学んだ理学療法の基礎知識を基に、病院・施設での見学実習を通じて、理学療法の業務全般を体験して学ぶ。具体的には、理学療法の対象疾患、理学療法の流れ、理学療法評価、理学療法の治療法、リハビリテーションでの位置づけ等を実体験する。

実務経験のある教員による授業科目一覧【理学療法学科】

2019年度

授業科目	単位数	履修学年	担当教員	実務経験	授業内容
評価学実習	3	3	橋口 優	理学療法士	学内で学んだ理学療法の評価法の知識・技術を中心に病院・施設で実習する。理学療法の対象疾患である中枢神経疾患、整形外科疾患等の医療面接法、各種検査・測定、記録法等について、臨床実習指導者の下で実体験する。
総合臨床実習Ⅰ	7	4	鈴木 学	理学療法士	学内で学んだ理学療法の知識、技術の全般について、病院、施設で実習する。患者を対象として理学療法の流れに従って、理学療法評価、治療目標の設定、治療プログラムの作成、理学療法治療の実施、理学療法記録等を、臨床実習指導者の下で学ぶ。とりわけ、治療プログラムの作成までを重視する。
総合臨床実習Ⅱ	7	4	鈴木 学	理学療法士	学内で学んだ理学療法の知識、技術の全般について、病院、施設で実習する。患者を対象として理学療法の流れに従って、理学療法評価、治療目標の設定、治療プログラムの作成、理学療法治療の実施、理学療法記録等を、臨床実習指導者の下で学ぶ。
合計単位数	28				